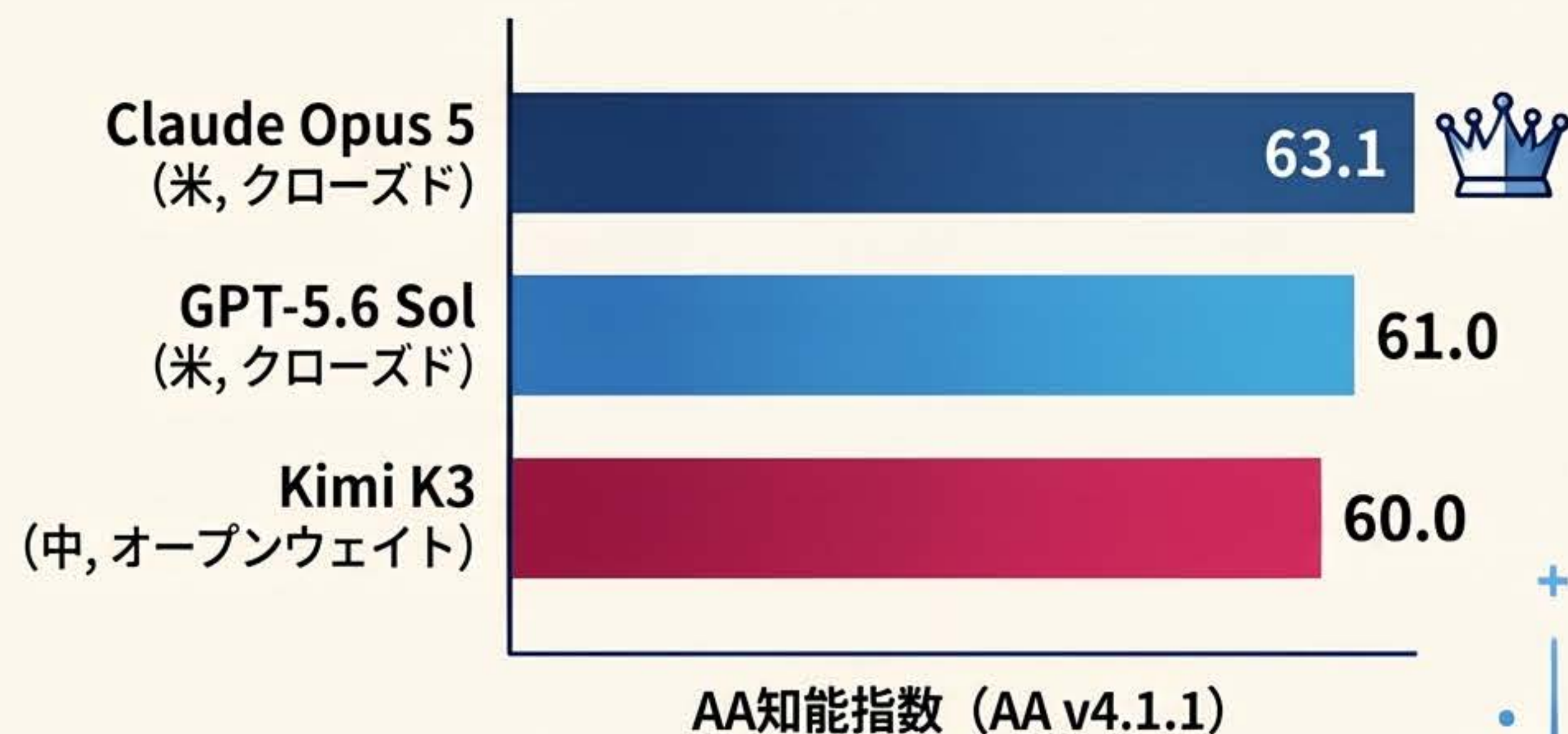


米中AI開発レース 2026：「半年遅れ」説の終焉と新たな勢力図

2026年8月時点の調査に基づき、米中のAIモデルを比較。最高性能（クローズド）では米国が僅差でリードを保つ一方、オープンウェイトモデル、コスト効率、開発者シェアの各指標では中国が台頭しており、もはや単純な「半年遅れ」という言葉では実態を説明できない状況となっている。

性能と普及の「非対称な」競争

最高性能は米国がリード、ただし「僅差」
AA知能指数で米Claude Opus 5（63.1）が普位だが、
中Kimi K3（60.0）との差は数点まで縮小。



圧倒的なコスト効率と構造的格差
数分の一から百分の一の圧倒的コスト優位
同等性能帯において、中国製モデルは米国製に比べ
極めて安価な価格設定を実現。



オープンモデルは中国が「事実上の覇権」
QwenやDeepSeekが上位を独占し、米国側の対抗は
Meta製モデルのみという勢力図に。



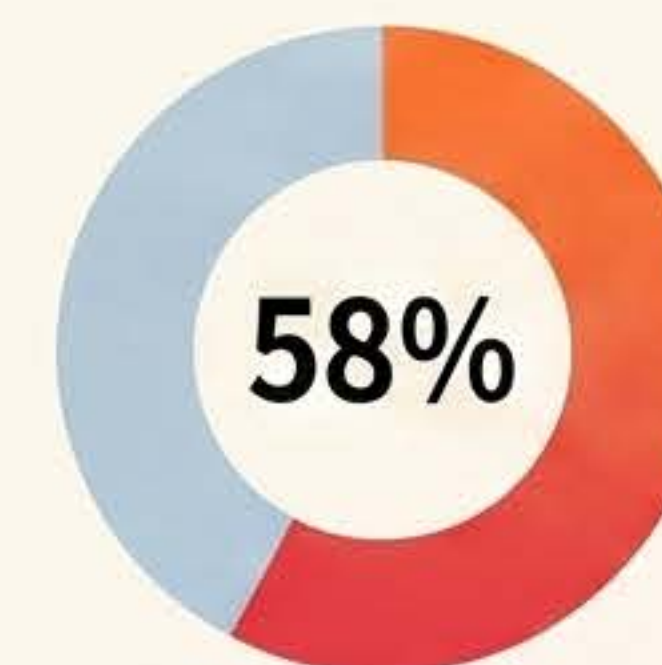
Qwen



DeepSeek



Meta



米国開発者の58%が
中国製モデルを
採用

23倍の投資格差をエコシステムでカバー
米国の民間投資（2869億ドル）に対し中国（124億
ドル）は少額だが、DL数で世界首位を獲得。

